



CSR REPORT 2021

「マイナス」を「プラス」に変える新しい発想。 目指すのは持続可能な社会の実現です。

—2020年度日本建築学会技術部門設計競技にて優秀賞を受賞—



Eating Trash Island

～海洋プラスチックゴミを食べる島～

日本建築学会は、建築に関する学術・技術・芸術の進歩発達をはかることを目的とする学術団体で、会員を対象に技術部門設計競技を毎年開催しています。居住の持続性を確保するために、街区・集落レベルにおいて複合的な技術が長期的に補完し合い恩恵をもたらすような提案が求められました。鴻池組の設計部門では、従来から外部コンペティションへの積極的な挑戦を方針にしており、今回は2018年入社 of 若手社員4名によるプロジェクトを組み応募したところ、応募数22作品のうち優秀賞を受賞しました。

環境問題と住居の問題を同時に解決へ

今回優秀賞を受賞した提案は、近年世界的な環境問題にもなっている海洋プラスチックゴミが、大洋の渦に集まることに着目し、この渦に拠点となる島を建設。ゴミ回収とリサイクルを行うとともに、リサイクル材を建材として活用するユニット島を周辺に建設していくことで、住居としての機能も持たせるものです。各ユニット島には拠点島で働く人々の家族などが住むことを想定し、水上都市となる壮大な構想です。





PROJECT MEMBER

2018年入社4名

このコンペに参加することで、SDGsに正面から向き合い、考えを深める機会を得られました。結果として各方面から想像以上の評価をいただき、環境課題の解決というテーマの重要性を再確認できました。今後キャリアを重ねても、柔軟な発想を持ち、それを発信することを続けていきたいと思えます。



意匠設計 佐野 晴香

今回のメンバーは同期入社ではあるのですが、協働でプランニングをするのは初めてだったのでとても刺激的で、柔軟に物事を考えるきっかけにもなり、いろいろな人の意見を聞き入れることが大切だと改めて感じました。さまざまな意見を集約し、自分の発想を越える提案を生み出せる設計者になりたいです。



設備設計 水野 陽基

コロナ禍でのプロジェクト進行となり、メンバーが同じ空間にいないとで、イメージ共有がこんなにも難しいのかと痛感しました。今回の経験を通じて、これまで設計の仕事と無関係だと思っていたSDGsとの接点を見つけられたので、今後は積極的に提案していきたいです。



構造設計 新田 和哉

新しいことに挑戦するおもしろさを味わい、優秀賞という形でこの挑戦を終えられました。慣れない初めてのことで真剣に向き合うことで結果につながるということ、身を以て学びました。今後、設計を行う上でも、考えを深めながら自分らしい何かをプラスした提案ができるように心がけていきます。



構造設計 山田 崇人



プロジェクトメンバーによる対談や動画は左のQRコード、
または <https://www.konoike.co.jp/recruit/freshers/project/story3/> よりご覧いただけます。

企業理念

“KONOIKE SPIRIT”とCSR活動方針



CSR活動方針

- 1.コンプライアンスの徹底とガバナンスの強化
- 2.働きがいの向上
- 3.CR活動※によるお客様との共有価値の創造
- 4.地域社会との融和
- 5.環境負荷の低減と環境関連技術の練磨

※「CR活動」とはCustomer Relations活動の略で、お客様から寄せられる信頼の獲得とその維持・発展のために行う活動のことです。

CONTENTS

Eating Trash Island ～海洋プラスチックゴミを食べる島～	1	働きがいの向上	9
企業理念・CSR活動方針・目標	3	CR活動によるお客様との共有価値の創造	13
KONOIKE Next Vision [for SDGs]を策定	5	地域社会との融和	15
社長メッセージ	7	環境負荷の低減と環境関連技術の練磨	17
コンプライアンスの徹底とガバナンスの強化	8	環境関連データ/国内外ネットワーク	21

【2020年度】CSR目標達成状況

2020年度のCSR目標達成状況は以下のとおりです。
【達成度】○:達成、x:未達成

活動方針	取り組み事項	数値目標	達成状況	達成度
1 コンプライアンスの徹底とガバナンスの強化	重大なコンプライアンス違反の発生防止	発生0件	1件	x
	安否確認訓練の6時間以内返信率向上	90%以上	91%	○
	コンプライアンス研修の実施(本支店単位)	1回	全拠点1回以上	○
	コンプライアンスeラーニングの実施	2回	2回	○
	情報セキュリティeラーニングの実施	5回	5回	○
	死亡・永久労働不能(障害1~3級)災害の絶無	0件	0件	○
	目標度数率(休業4日以上労働災害)の達成	0.5以内	0.49	○
2 働きがいの向上	新卒採用者に占める女性割合増大	20%以上	21.4%	○
	男性育児休業取得率の向上	7%以上	18.2%	○
	有給休暇取得率の向上(有給休暇取得率=当該年度取得日数/当該年度付与日数)	50%以上	52.1%	○
	現場閉所率の向上	4週8閉所 実施率50%以上	43.5%	x
3 CR活動によるお客様との共有価値の創造	【民間工事】新様式によるお客様アンケートの実施	【民間工事】竣工時:当社推奨度8以上(10点満点)	8.6	○
	【官庁工事】工事成績評定向上	アフター:建物全体評価3以上(4点満点)	3.5	○
		【官庁工事】設定目標値以上 国交省:80点 農水省:80点 UR:72点 東京都:75点	13件中8件目標達成	○
4 地域社会との融和	社内広報紙「CR NEWS」の発行	7回	7回	○
	お客様の課題解決に貢献する技術の実用化(環境関連除く)	1件	1件	○
	現場や会社施設見学者の積極的受け入れ	5,000名	10,937名	○
	地域ボランティア活動への積極的参加	750件	1,647件	○
5 環境負荷の低減と環境関連技術の練磨	全社社会貢献活動の新規実施	3件	3件	○
	施工段階におけるCO ₂ 排出量削減(原単位)	26.9t-CO ₂ /億円(2030日建連目標)	22.6t-CO ₂ /億円	○
	土木:再生可能エネルギー案件への取り組み	4件	19件	○
	建築:設計施工案件で「ZEBもしくはCASBEEのAランク以上取得」	4件	4件	○
	建設廃棄物リサイクル率の向上	97%以上	97.8%	○
	環境修復工事の積極的な実施	12件	16件	○

【2021年度】CSR目標

2020年度の目標達成状況および社会からの要請等を踏まえ、2021年度のCSR目標を以下のとおり定めました。

活動方針	取り組み事項	数値目標	SDGsとの関連	
1 コンプライアンスの徹底とガバナンスの強化	重大なコンプライアンス違反の発生防止	発生0件		
	感染症対応を含むBCPマニュアルの策定			
	コンプライアンス研修の実施(本支店単位)	1回		
	コンプライアンスeラーニングの実施	2回		
	管理部長以上への人権推進教育の実施(本支店単位)	1回		5 性別平等, 8 持続可能な消費と生産
	情報セキュリティeラーニングの実施	4回		
	鴻友会会員を対象としたCSR調達方針説明会の実施(本支店単位)	1回		
2 働きがいの向上	死亡・永久労働不能(障害1~3級)災害の絶無	0件		3 気候変動に起因する健康と福祉, 8 持続可能な消費と生産
	目標度数率(休業4日以上労働災害)の達成*	0.42以下		
	新卒採用者に占める女性割合増大	20%以上		5 性別平等
	男性育児休業取得率の向上	20%以上		3 気候変動に起因する健康と福祉, 5 性別平等, 8 持続可能な消費と生産
	従業員満足度調査「総合満足度」の向上*	前年度実績以上		3 気候変動に起因する健康と福祉, 5 性別平等, 8 持続可能な消費と生産
3 CR活動によるお客様との共有価値の創造	有給休暇取得率の向上(有給休暇取得率=当該年度取得日数/当該年度付与日数)	50%以上		3 気候変動に起因する健康と福祉, 8 持続可能な消費と生産
	現場閉所率の向上	4週8閉所 実施率70%以上		
	【民間工事】竣工時およびアフターアンケートにおけるお客様評価の向上	【民間工事】竣工時:当社推奨度8以上(10点満点)		【官庁工事】設定目標値以上 国交省:80点 農水省:80点 UR:72点 東京都:75点
	【官庁工事】工事成績評定向上	アフター:建物全体評価3以上(4点満点)		
	災害対策およびインフラ老朽化対策技術の新規実用化*	1件		9 産業と資源効率, 11 持続可能な都市とコミュニティ, 13 気候変動に起因する健康と福祉
4 地域社会との融和	再生可能資源の活用と建物のゼロエネルギー化に関する技術の新規実用化*	1件		7 再生可能エネルギー, 9 産業と資源効率, 12 持続可能な消費と生産
	現場や会社施設見学者の積極的受け入れ	土木 5,000名 建築 1,500名 計 6,500名		4 質の高い教育をみんなに
	地域ボランティア活動への積極的参加	土木 400件 建築 500件 計 900件		
	CSR表彰制度による第1回表彰を実施	表彰実施		
	施工段階におけるCO ₂ 排出量削減(原単位)*	21.0t-CO ₂ /億円		9 産業と資源効率, 13 気候変動に起因する健康と福祉
5 環境負荷の低減と環境関連技術の練磨	事業で使用する電力における再生可能エネルギー比率*	5%		7 再生可能エネルギー, 13 気候変動に起因する健康と福祉
	建築:設計施工案件で「ZEBもしくはCASBEEのAランク以上、その他これらに類する評価の取得」	5件		7 再生可能エネルギー, 9 産業と資源効率, 13 気候変動に起因する健康と福祉
	建設廃棄物リサイクル率の向上*	98%以上		12 持続可能な消費と生産
	廃プラスチックリサイクル率の向上*	85%以上		14 海の豊かさを守ろう
	事業全体に占める環境関連事業売上高の割合*	10%		9 産業と資源効率, 15 気候変動に起因する健康と福祉

KONOIKE Next Vision [for SDGs]を策定

鴻池組は、国際目標であるSDGs(持続可能な開発目標)の枠組みに則り、環境・社会に高い次元で配慮した経営を行う姿勢を明確にすることで企業価値の向上を図ることを目的に、2020年4月にKONOIKE Next Vision[for SDGs]を策定、公表しました。

策定にあたっては、強みを持つ環境分野の成長戦略を描くのみでなく、事業活動が環境に与える負の影響の軽減についても意欲的な目標を掲げました。

その他、社会の安心・安全に貢献する分野と従業員や協力会社の方々の働きがいと安心に貢献する分野にも長期目標を定め、つまりは、

「地球環境」「住環境」「労働環境」の3つの側面で、今後約10年の月日をかけ鴻池組が到達すべき姿を示すものとなっています。

KONOIKE Next Vision [for SDGs]を柱にCSRとESGに配慮した経営を行っていくことで、常に社会から求められ、社会に貢献できる鴻池組を築いていきます。

KONOIKE Next Vision [for SDGs]

鴻池組は2030年までに以下の事項の実現を目指します

地球環境の保全

脱炭素社会実現のために

- 施工段階のCO₂排出量(原単位)を1990年度比で半減(2050年には実質ゼロ)
- 事業で使用する電力の80%を再生可能エネルギーで発電・調達(2050年には100%以上)



循環型社会実現のために

- 建設廃棄物のリサイクル率100%、廃プラスチックゼロ



自然共生社会実現のために

- 環境関連事業の売上高を事業全体の30%まで拡大



住環境の向上

安全・安心な社会実現のために

- 災害対策およびインフラ老朽化対策技術の新規実用化20件
- 再生可能資源の活用と建物のゼロエネルギー化に関する技術の新規実用化20件



労働環境の充実

働きがい溢れる職場実現のために

- 従業員満足度調査「総合満足度」、前年度実績以上の継続
- 労働災害度数率 0.15以下



策定までのプロセス

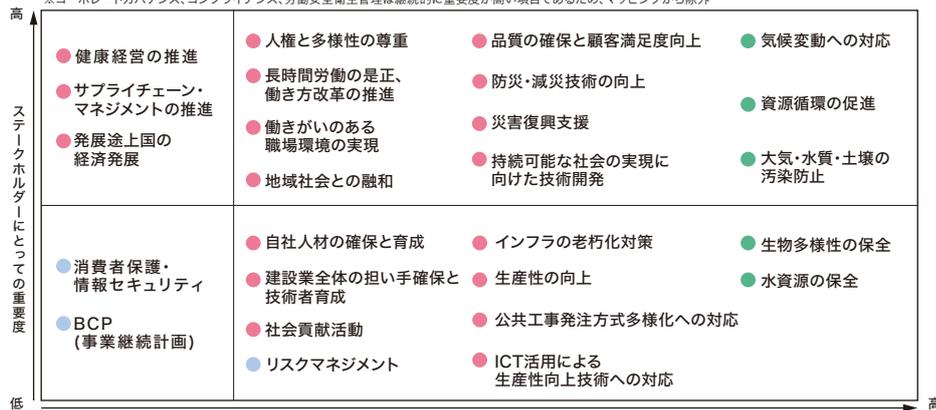
以下、KONOIKE Next Vision [for SDGs]策定までの経過についてご説明します。

まず、ESG(環境・社会・ガバナンス)のさまざまな課題について、ステークホルダーにとっての重要度を縦軸、自社にとっての重要度を横軸とするマトリクスの中で評価し、マテリアリティ(重要課題)を選定しました。

マテリアリティ(重要課題)の選定

【凡例】●環境に関する項目 ●社会に関する項目 ●ガバナンスに関する項目

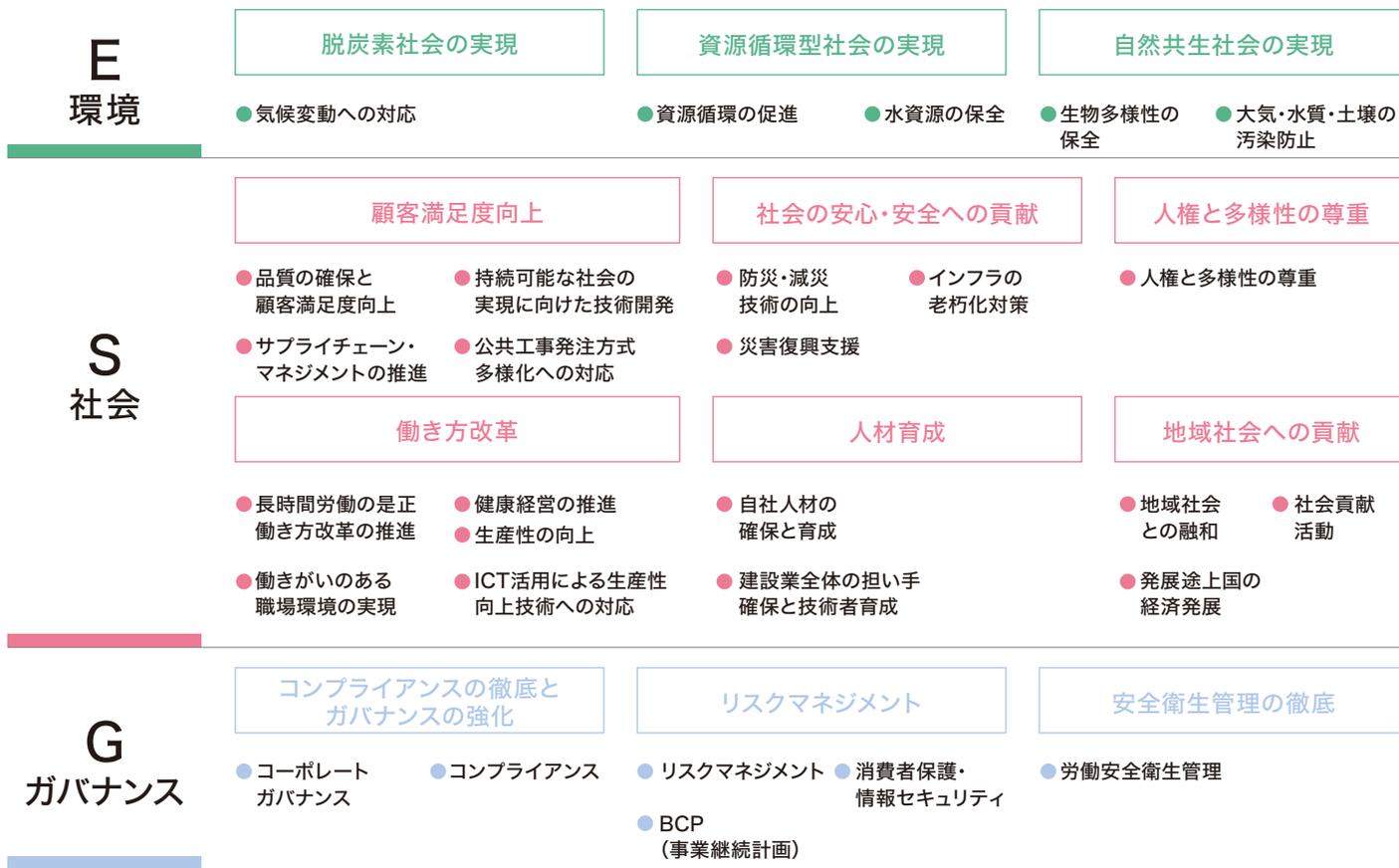
※コーポレートガバナンス、コンプライアンス、労働安全衛生管理は継続的に重要度が高い項目であるため、マッピングから除外



※重要度が低いと判断された課題はマッピングから除外

次に、選定したマテリアリティ(重要課題)を、12のESG重要テーマに集約しました。

ESG重要テーマ



次に、ESG重要テーマごとに、SDGsへの貢献度を管理するにふさわしい指標を検討するとともに、達成すべきレベルが高く長期スパンでの管理が必要なものへの絞り込みを行いました。最終的に8つの指標を選定し、これらに数値目標を設定したものが、左記のKONOIKE Next Vision[for SDGs]になります。

目標管理手法検討

【目標管理手法凡例】◎:達成すべきレベルが高く長期スパンでの管理が必要なもの ○:年度ごとの管理に向くもの

ESG	ESGの重要テーマ	目標管理手法	長期管理の場合の指標候補
E 環境	脱炭素社会の実現	◎	● 施工段階のCO ₂ 排出量 ● 事業で使用する電力の再生可能エネルギー比率
	資源循環型社会の実現	◎	● 建設廃棄物のリサイクル率と廃プラスチック減量化
	自然共生社会の実現	◎	● 環境関連事業の売上高割合
S 社会	顧客満足度向上	◎	● 災害対策やインフラ老朽化対策技術の新規実用化件数 ● 再生可能資源の活用と建物のゼロエネルギー化に関する技術の新規実用化件数
	社会の安心・安全への貢献	◎	
	人権と多様性の尊重	◎	● 従業員満足度
	働き方改革	◎	
	人材育成	◎	
	地域社会への貢献	○	-
G ガバナンス	コンプライアンスの徹底とガバナンスの強化	○	-
	リスクマネジメント	○	-
	安全衛生管理の徹底	◎	● 労働災害度数率

* Relationship Survey(RS)、Transaction Survey(TS)、Engagement Survey(ES)

社会の再構築を担う企業を目指します

2021年1月1日付けで代表取締役社長に就任しました渡津です。創業150周年を迎える節目の年から会社の舵取りを担うこととなりました。歴史と伝統の継承、そして変容する社会への対応を両立すべく求められたものと捉え、身の引き締まる思いです。

●あるべき未来像を社員、協力会社とともに目指す

2020年4月、鴻池組はKONOIKE Next Vision [for SDGs]を策定することで2030年までに到達すべき鴻池組の「あるべき姿」を明確にしました。10年という長期スパンの計画立案は長い歴史の中でも初の試みであり、その中で社員満足度を継続的に向上させていくという姿勢を明確に打ち出したことは、さらに画期的であったと言えます。また、同年8月には、「鴻池組CSR調達方針」も策定し、これら一連の活動によって、社員のエンゲージメントを高めていくこと、協力会社との紐帯をより強固なものにしていくことを、これまで以上に経営の中核に位置づけたこととなります。

社長に就任する以前から、私の夢は「鴻池組を従業員満足度トップの会社にすること」でしたが、このようなタイミングで経営のバトンを引き継いだことは、まさに運命的だと感じています。

●鴻池組のESG経営

2021年1月1日に、経営管理・土木事業・建築事業の各総轄本部からは独立した社長直属の組織としてESG経営推進室を立ち上げました。2021年は鴻池組にとっていわば「ESG経営元年」となります。

ESG経営やSDGsが注目されるのは、気候変動や資源の枯渇といった環境面の問題、少子高齢化や労働と健康のバランス、あるいは

は国・地域や性別に基づく不平等といった社会面の問題が人類全体の持続可能性を危うくするのではないかと危機感の裏返しでもあります。

そうした中、長期的な視点では、社会や環境の課題解決にこれまで以上に貢献可能な企業へと脱皮する、いわば「社会の再構築を担う企業」を目指すことによって企業価値を高めていく必要があると考えています。

一方、足下においては、成長に向けた投資の源泉となる収益力と企業の足腰とも言えるガバナンスの強化により積水ハウスグループにおけるプレゼンスの向上を図りながら、まずは次の50年、創業200年へ向け着実に歩みを進めてまいりたいと思います。



代表取締役社長

渡津 弘己

2

働きがいの向上

【取り組み事項】	【数値目標】	【達成状況】
有給休暇取得率の向上	50%以上	52.1%
現場閉所率の向上 4週8閉所実施率	50%以上	43.5%

鴻池組では全役職員のみならず、協力会社の方々を含めた TEAM KONOIKE 一丸となり働き方改革に取り組んでいます。

働き方改革

働き方改革への取り組み

建設業には社会インフラを支える基幹産業として、「働きがい」と「働きやすさ」を両立させ、さらに魅力ある産業へと進化していくことが求められています。鴻池組では『働き方改革』を経営における最重要課題の一つとして掲げ、経営層を中心に構成した「働き方改革推進委員会」を立ち上げ、生産性向上に関する施策や社内規程の改定等に取り組んできました。しかしながら、施策を講じ、総労働時間を圧縮するだけでは本当の『働き方改革』は成し遂げられないと考えています。『働き方改

革』は、社会や会社のためだけに推進されるものではありません。長時間労働を是正し、限られた時間の中でより効率的に働くことで、仕事と生活の調和による相乗効果や好循環を生み出し、自身の生活を豊かにし、人生をより楽しむために取り組むべきものです。そのためには、職員一人ひとりがそれぞれの立場で真剣に考え、働き方を変えていくことが重要です。自分たちのために自分たちで改革していくことの重要性をメッセージとして発信し続けています。

鴻池組が目指す働き方

鴻池組では、『働く』ということをあらゆる角度から見つめ直してきました。ワークライフバランスの実現のためには、「時間外労働を前提としない働き方」と「それを実践できる人材」が必要であると考え、「生産性の向上」と「人材の育成」に力を注いでいます。

そして、ワークライフバランス達成の先にある、真のダイバーシティとインクルージョンを獲得し、イノベーションに結実させていくことを目指し、その取り組みを進化させています。

鴻池組の取り組み事例

全国における働き方改革研修の実施

全職員が同じ認識のもとで、必要性を共有しながら『働き方改革』を推進していく基盤を作り出すことを目的に、全職員を対象とした働き方改革研修を全国で実施しました。本研修は、若年層からベテランまで同じ認識を共有してもらうため、階層別に区分けすることなく、年齢や職種を混在させ、全職員が同じプログラムを受講するものです。

一日の研修では、午前中に社内講師が、法改正の趣旨や働き方改革に対する会社の考えなどについて講義を行い、午後は外部講師を招いて、グループワークを中心とした「タイムマネジメント研修」を実施しました。コロナウイルスによる延期を挟み、Webセミナーを併用しながら、1年をかけて全29回の研修を実施しました。外部研修では、世代が混在したグループワークの中で、多様な

意見や考え方をぶつけあうことで、新たな気づきを得ることも多かったようです。研修後のアンケートでは、働き方改革推進に向けた会社への提案も受け付けており、今後の施策に生かしていきたいと考えています。



集合研修(大阪)※2019年10月開催



コロナ禍対応でWeb研修も実施

<研修後のアンケートより>

- ・自らが自身の働き方に対して真剣に考え、自らが改革を行えるよう考え、成長する必要があると改めて強く感じた。
- ・なぜ、いま働き方改革が必要なのか改めて理解できた。
- ・「定年後、自分を評価してくれるのは会社ではなく家族」という言葉が胸に刺さった。改めて業務の効率化を図り、働き方を見直そうと思った。

建設現場でのICT活用状況

建設現場における働き方改革を進める上で、ICTの活用は欠くことのできないものとなっています。生産性の向上に留まらず、新型コロナウイルス感染症対策への有効な手段として活用が進められています。ここでは、試行的な段階の技術も含め、現場での活用事例を紹介します。

コCoパトロール

安全衛生環境パトロールの業務改善について、現場から多くの要望が寄せられました。これに対して建築現場を中心に運用中の工事管理システム「KOCOチェック®」に『安全パトロール機能』を追加し、「KOCOパトロール」として現場での運用を開始しました。

この機能により安全パトロールがスムーズに行え、その結果をリアルタイムに関係者間で共有することが可能となりました。また、指摘事項に関する統計データが自動的に作成されることから、安全計画策定などの安全衛生活動の効率化にも寄与しています。



KOCOパトロールを用いた安全パトロール状況

リモートワーク

遠隔地にある現場での定例会議や検査、コロナ禍での日々の定時打合せなどに様々なICTツールが活用されています。

Web会議システム

積水ハウス様とマリオット・インターナショナル様が展開する「Trip Base 道の駅プロジェクト」において、当社は三重県や和歌山県で3件の施工を担当しました。いずれも遠隔地にあることから定例会議をWeb会議とすることで、従来方法と比べ効率化を図りました。ファイル共有による情報展開や画面共有によるわかりやすい説明の実施、複数人によるデータの共同編集ができるため、効率よく議事録や質疑回答などの資料を作成できました。

また、複合用途ビルを建設する神戸駅前プロジェクト等においては、定時打合せ時の密な状況避けるため、Web会議システムを用いて事務所の自席や外出先からも参加できるようにしました。

マターポートによる空間撮影

前述の「Trip Base 道の駅プロジェクト」においては、マターポート（高画質360度カメラ）映像を専用クラウドサーバーにより共有することで、現地に赴かないでも空間情報を共有でき、建物内部の状況を確認することができました。また、映像へのタグ付け機能を利用することで、関係者が検査での指摘事項を閲覧・確認でき、検査情報の活用が容易になりました。



タグ付け機能による指摘事項の確認

未来志向の取り組み

現在、工事が進められている「(仮称)KONOIKE テクノセンター」においては、先端ICTの試行の一環としてMRやBIMとICT建機の連携等に取り組み、施工管理の高度化や生産性向上にチャレンジしています。

MR: Mixed Reality (複合現実)

MR (Microsoft HoloLens) を用いた施工管理の第一弾として、基礎杭打設前の杭芯位置確認を行いました。事前に杭伏図のデータと起点情報をHoloLensに登録します。現場では装着したHoloLens内のスクリーンに、その場所の現況を背景として杭伏図データを重ね合わせることで、杭芯位置を精度良く確認することができました。引き続き、他の施工管理での活用について検証を進めていきます。



HoloLensによる杭芯出し状況

BIMとICT建機のスムーズな連携

BIMデータからマシンガイダンス用のデータ変換を容易に行える技術を用い、ICT油圧ショベルによる掘削工事を行いました。従来、多くの手間を要していた「LandXML」へのデータ変換手間が大幅に削減できました。なお、ICT建機による掘削後の計測では、実用に十分な精度が確保できたことを確認しました。



BIMデータとICT建機

2

働きがいの向上

【取り組み事項】	【数値目標】	【達成状況】
新卒採用者に占める女性割合増大	20%以上	21.4%
男性育児休業取得率の向上	7%以上	18.2%

鴻池組のダイバーシティ推進方針

鴻池組は、多様な人材を創出し、若くて強靱な組織構築を通じて、企業価値の向上を目指すためにダイバーシティを推進していきます。

1

従業員の多様性、人格、個性を尊重するとともに、安全で働きやすい環境を確保し、ゆとりと豊かさを実現します。

2

ワークライフバランスの推進によって、従業員が能力を最大限発揮できる環境を整備し、将来にわたり持続可能な会社を目指します。

3

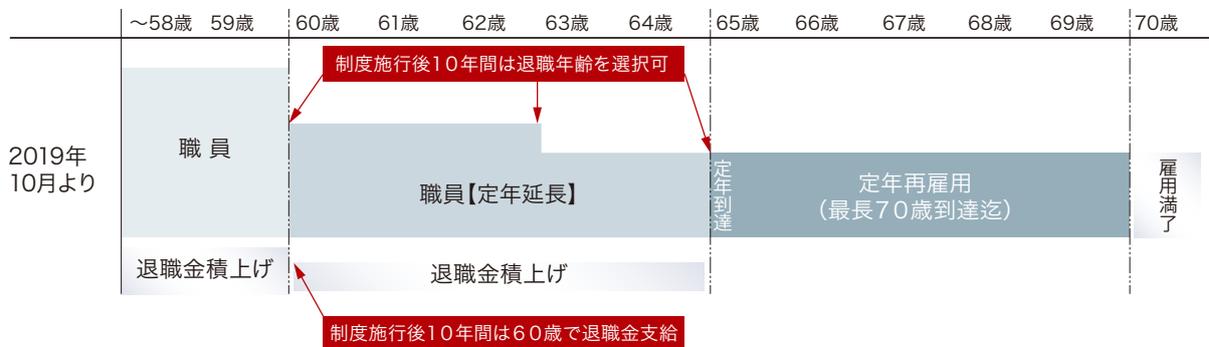
女性管理職ならびに女性総合職比率の向上を実現し、女性活躍推進に積極的に取り組みます。

➤65歳定年制度導入による効果

鴻池組では、豊富な経験を持つシニア人材の一層の活躍を目的として、2019年10月に65歳定年制に移行しました。制度施行後10年間は、定年年齢を60歳・63歳・65歳から選択でき、退職金を60歳時点で受け取れる仕組みとしました。これまでに、対象者の9割以上が定年の延長を選

択しています。働き方改革への取り組みを進める中、若手職員は限られた時間で経験とスキルを身につけていく必要がありますが、シニア人材の持つ豊富な知見を適宜伝達し、より効果的に若手をレベルアップさせることで、会社の技術力の維持・向上に努めていきたいと考えています。

【定年延長イメージ図】



➤フレックスタイム制度の導入

鴻池組では、職員個々の事情にあわせて働き方を後押しする制度として、2020年8月に「スライド勤務制度」を導入しました。そして、当該制度をベースとして、より多様で柔軟な働き方を推進すべく、2021年4月に「フレックスタイム制度」への移行を行いました。「スライド勤務制度」は1日の就労時間を前後にスライドできるという制度でしたが、所定労働時間として1日8時間が定められているため、早く帰るためにはその分朝早

く出社しなければならない等の制約がありました。

「フレックスタイム制度」では、必ず働かなければならない「コアタイム」4時間と、自身で退社時間を選択できる「フレキシブルタイム」を組み合わせることで、仕事の繁閑や日々の予定にあわせてより柔軟に働くことが可能となりました。労働時間を効率的に配分できることで、働きやすさの向上はもちろんのこと、生産性の面でも良い影響が出るものと考えています。

【フレックスタイム制度の時間構成】



女性意見交換会の実施

鴻池組では、建設現場で働く技術系女性職員との意見交換会を定期的に実施しています。近年では新卒採用者に占める女性職員の割合が増えてきましたが、建設現場で働く技術系女性職員の数はまだまだ多いとはいええないため、座談会形式で職場環境や女性特有の悩みなどをヒアリングすることで、一人で抱え込まないようなフォロー体制を構築

しています。特にコロナ禍の入社となった2020年度新入社員は、研修期間の短縮や対面研修からWeb研修へ変更となったことによって、同期どうしのコミュニケーションが十分に取れないまま現場着任となったこともあり、横の繋がりを意識した継続的なサポートを行っていきたいと考えています。



意見交換会の実施状況



服装の自由化

鴻池組では、多様な人財を創出し強靱な組織構築を通じて企業価値の向上を目指すダイバーシティ施策の一環として、2020年6月よりオフィスでのビジネスカジュアルを基本とした服装自由化を実施しました。リラックスできる自由な服装で就業することで、身体的・精神的なストレスを軽減するとともに、固定観念にとられない自由な発想を促し、個人のパフォーマンスを最大限に引き出すことを目的としています。また、服装自由化によって自由で明るい雰囲気醸成し、社内コミュニケーションのさらなる活性化を図っていききたいと考えています。



服装自由化周知ポスター

健康経営に向けた取り組み

鴻池組では、従業員が持てる力を思う存分発揮するためには心身ともに健康であることが必要不可欠と考え、働き方改革やダイバーシティの推進、ヘルスチェック体制の充実や職場環境の改善などのさまざまな取り組みを通じて健康づくりのサポートを行っています。これらの取り組みが認められ、「健康経営優良法人2020(大規模法人部門)」に認定されました。2021年度も引き続き、「健康経営優良法人2021」に認定されています。



2021
健康経営優良法人
Health and productivity



3

CR活動によるお客様との共有価値の創造

【取り組み事項】	【数値目標】	【達成状況】
[民間工事]竣工時およびアフターアンケートにおけるお客様評価の向上	竣工時:当社推奨度8以上(10点満点) アフター:建物全体評価3以上(4点満点)	8.6 3.5
[官庁工事]工事成績評定向上	設定目標値以上 国交省:80点 農水省:80点 UR:72点 東京都:75点	13件中8件目標達成
社内広報紙「CR NEWS」の発行	7回	7回
お客様の課題解決に貢献する技術の実用化(環境関連除く)	1件	1件

お客様との信頼関係を構築し、維持・発展させるCR活動についてお客様の声を通じてご紹介します。



不規則なリズム性を持つ外観デザイン



フリーアドレス制の執務エリア



社員食堂にはタイガー魔法瓶様の製品で焼くピザも



アウトドア風のインテリアを用いたエリア

▶ タイガー魔法瓶株式会社 本社新オフィス棟

朝、水筒にいったホカホカのお茶が夕方でも温かい。
炊飯ジャーの蓋をあければご飯の香りがふわっと立ちのぼる。

調理家電がもたらす豊かな生活のシーンにタイガーロゴを思い浮かべる方も多いでしょう。タイガー魔法瓶様は老舗調理家電メーカーであるとともに、熱制御テクノロジー分野では世界屈指のレベルにあって、医療・宇宙分野で成果を挙げてきました。そして間もなく2023年には創立100周年を迎えます。

その記念事業の一環である2020年竣工の本社新オフィス棟新築工事を、鴻池組へご発注いただきました。それまでも工事を何件かご用命いただいていたのですが、本計画はタイガー魔法瓶様の企業理念を象徴するとともに、次の100年を見据えて企業活動をより活性化する役割を担う施設です。その建設をお任せいただけるわけですから、なんとしてもご信頼にお応えしたい。営業から施工現場まで鴻池組社員一丸となって取り組みました。

計画にあたっては、まず設計コンセプトの忠実な具現化に注力しました。設計のあらゆるところにSDGsやエシカル消費といった社会の課題解決への熱意と、多文化共生やイノベーションに取り組む空間の創出が表現されています。当然ながら、極めて高い精度での施工が必要でした。また、稼働中の工場敷地内での工事となることから日々の生産活動に極力支障がないよう、工程や仮設計画等には細心の注意を払いました。

次の100年に向かってタイガー魔法瓶様が掲げる理想とともに、鴻池組も提案力と技術力をよりいっそう高めてまいります。



吹き抜けもあり開放的な雰囲気



新オフィス棟 外観



エントランス

お客様の声

何でも相談できる鴻池組

鴻池組さんのお付き合いは決して古いわけではありません。しかし気がつけば、お願いする工事が増えて「何でも相談できる鴻池組」という存在になっていました。

とはいえ、鴻池組さんにだけ声をかけているわけではなく、当社ではすべての案件を入札にかけています。どんなにお付き合いが長い会社さんでも横一線で、多い時には10社ほど参加されます。鴻池組さんはそこを何度も勝ち抜いてきた。すごいですよね。では、鴻池組さんの提案って何がいいのか。タイガー魔法瓶という会社をよく分かっていて、ズバツと本質を突いてこられるんですよ。

顧客の理想を実現するために、徹底して誠実

当社が発注する一つひとつの工事には、私たちが実現したい理想や目標があるわけです。鴻池組はそこへの理解度が高い。当該工事の意図をどのように具現化するかを徹底的に考え抜いたことが、提出書面やプレゼンテーションからよく伝わってきます。加えて価格や品質、技術のバランスもよい。複数の選択肢があるところでは「費用はかかるけれど、こんな風によいものになる」といったメリット、デメリットを詳しく示してくれます。そこにも自社の都合をあまり感じさせない。顧客の適切な意思決定を助けたいという誠実な姿勢がいいですよ。

誠実さは着工後にも感じます。一つひとつの作業を丁寧に進めてくれるのはもちろんですが、「誰かに見られているから」というような取り繕った感じがしない。どんな時でもきちんと仕事をやり遂げる自然な規律正しさがあります。最近では年間を通じて社内各所で工事してもらうことも増えましたが、当社社員から鴻池組さんに対して苦情めいた話はありません。敷地内で鴻池組の方が作業されていることにすっきりなじんで、親近感すら感じているんじゃないでしょうか。何かあったら「鴻池組さん」となるのも自然な流れかと思えます。

本当に困っている時、駆けつけてくれた

顧客の立場に立って動くという観点から振り返ってみると、当社にとって特に印象深いできごとがあります。

日本各地に甚大な被害をもたらした2018年台風21号は、当社にも大きな影響を与えました。特に、当社関連のショッピングセンターと隣地との敷地境界ブロック塀が倒壊しかけた件では、撤去を含めた至急の安全確保が必要になったのです。でも、台風の被害は甚大で広範囲に及んでいる状況ですから、当然ながら建設会社への災害復旧の依頼も殺到しますよね。近隣業者に片っ端から頼んでみたけれど全部ダメでした。

焦りが募る中、絶る思いで鴻池組の営業担当者に相談したら、そこからの対応がすごかった。「鴻池組から来ました！」と現場へ駆けつけてきた方々がおられたんですよ。鴻池組さんのネットワークで動ける人や機材を探し、大至急で手配してくれました。営業部門と技術部門の距離が近く、連携がしっかりしていることを実感しました。何ととっても、本当に困った時に助けてもらったという安心感、信頼感には大きなものがあります。

ファシリティマネジメントへの期待

当社は「世界中に幸せな団らんを広める」という未来の実現を願って製品やサービスを世に送り出してきました。当社の各事業所はただの箱ではなく、幸せを生み出す製品づくりの空間といういいと思います。人権や健康や環境といった社会課題に取り組む企業として、今ある建物が老朽化したとしても、ただ壊し、ただ建てるだけでいいはずがありません。つまりファシリティマネジメント領域でも、鴻池組さんのアイデアを求めていくことになるんじゃないでしょうか。これからも「当社の施設・環境全体をどのように企画・活用していったらいいのか」という課題解決につながる提案を期待しています。



タイガー魔法瓶株式会社
管理グループ 統括マネージャー
西谷 俊二 様

鴻池組のCR活動について

鴻池組はかねて「お客様との信頼関係を構築し、維持・発展させる活動」と定義づけたCR(Customer Relations)活動に注力してきましたが、SDGsへの取り組みの本格化や、ESGを意識した事業活動へのシフトを併せて進める中、これらの経営用語を一旦整理し、認識の統一を図る必要があると考え、『CSR推進ガイドブック』を制作、2020年4月に全役職員へ配付しました。

CR活動に関するページでは、お客様満足度向上に必要な考え方を掲載するのみでなく、お客様の高評価につながったプロジェクトの良かった点を明確に示すなど、日々の業務に具体的なヒントを与えるガイドブックに仕上がっています。



4

地域社会との融和

【取り組み事項】	【数値目標】	【達成状況】
現場や会社施設見学者の積極的受け入れ	5,000名	10,937名
地域ボランティア活動への積極的参加	750件	1,647件
全社の社会貢献活動の新規実施	3件	3件

世界のさまざまな地域で生産活動を行う建設業は、地域社会とのコミュニケーションや発展への貢献に大きな責任を負っています。地域社会との融和を目指して行っている、各本支店や現場での取り組みをご紹介します。

➤ 鴻池組の地域貢献

① 「古着deワクチン」活動に寄付



「古着deワクチン」は不要となった衣類やバッグ、靴等を送付し、それらを開発途上国でリユースすることで現地の雇用を生み出し、同時に一口につき5人分のポリオワクチン接種代金が寄付される活動です。

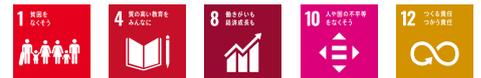
当社では、作業服のリニューアル実施に伴い、旧タイプの作業服を社員から集めて、約9,300着をこの活動に寄付しました。不要となった作業服を有効活用するとともに、子供たちから始まる笑顔のつながりにほんのちょっとだけ役に立てたことと感じています。



② 障がい者が描く

仮囲いアートミュージアム計画への参画

(社会福祉法人東京援護協会 大泉障害者支援ホーム改築工事)



障がい者の描いた作品を耐候性のあるキャンバスに印刷し、建設工事現場の仮囲いに展示することで周辺環境に優しい印象を与え通行人を和ませる「9丁目の仲間 アートミュージアム」に参画しました。

今回、この現場の仮囲いを彩る作品は、お客様でもある大泉障害者支援ホームの利用者や隣接する練馬福祉園、大泉特別支援学校の障がい者の皆様から提供されたものです。仮囲いの撤去後には、アート作品のキャンバスをバッグなどに加工し企業ノベルティグッズとして販売し、作品を制作したアーティスト(障がい者)に使用料が支払われる仕組みになっています。



仮囲いアート



③ 地元小学生の現場見学および市民参加の瓦記名会開催 (養父市文化会館(仮称)建設工事)



当工事現場で使用する瓦は、立誠舎※などに使用された「八鹿瓦」をイメージして製作したもので、その使用枚数は建物全体で約6万枚にも上ります。2020年11月、地域社会の方々とのコミュニケーションの一環として、現場でその瓦に名前やメッセージを書いていただく記名会を開催しました。

午前中、宿南小学校の児童、先生、保護者69名が参加し、コンクリートやクレーンについて説明を行った後、現場見学を行いました。現場見学では、児童のみならず先生、保護者の方からもさまざまな質問が飛び出し、見学会を通じて建設現場に興味を持っていただきました。

また午後からは、小さなお子様から年配の方までの養父市民約300名に会場いただき、瓦記名会を開催しました。

※立誠舎…儒学者 池田草庵が最初に開いた但馬最古の現存する漢学塾。



瓦記名会の様子

④ 周辺地域住民を対象としたトンネル現場見学会開催 (渡波稲井線工事)



事前広報案内を通じてお子様からお年寄りまで幅広い世代に参加いただき、全148名でのトンネル現場見学会を行いました。起点側坑口部での集合写真撮影後、切羽箇所現場所長による現在の進捗状況やトンネルの作業の進め方などの説明を行い、マンリフト試乗体験や削孔のデモンストレーションを実施しました。

参加者は、初めて見るトンネル工事の様子や規模などの迫りに圧倒された様子で、カメラを片手に生活利便性が高くなる道路のいち早い完成を望む声が多数寄せられ、地域住民の皆様にご理解を深めていただくことができました。



マンリフト試乗体験の様子

⑤ ジョイセフでの支援活動



当社宛に届いた郵便物から使用済み切手5,467gを収集し、公益財団法人ジョイセフに寄贈する支援活動を実施しました。当社は、ジョイセフの「開発途上国の女性が安全に出産できるよう取り組んでいる活動」を応援しています。

女性・選択できる世界を。ジョイセフ



5

環境負荷の低減と 環境関連技術の練磨

【取り組み事項】	【数値目標】	【達成状況】
施工段階におけるCO ₂ 排出量削減(原単位)	26.9t-CO ₂ /億円	22.6t-CO ₂ /億円
土木:再生可能エネルギー案件への取り組み	4件	19件
建築:設計施工案件で「ZEBもしくはCASBEEのAランク以上取得」	4件	4件
環境修復工事の積極的な実施	12件	16件

脱炭素社会の実現に向けて

脱炭素社会の実現に向け、再生可能エネルギーの利用および省エネルギーに優れた建物を建設・改修する技術の開発を進めています。

➤東灘第1低層配水場小水力発電事業

神戸市水道局では、環境にやさしい水道システムの構築を目指し、マイクロ水力発電の導入促進など再生可能エネルギーの活用を進めています。東灘第1低層配水場には1日14,000~20,600m³の入水があり、立地条件から有効落差が35mあります。この入水を未利用エネルギーとして有効に活用(位置エネルギーを電力に変換)することを検討していました。今回、公募を経て当社がその発電事業者に選ばれました。



全景

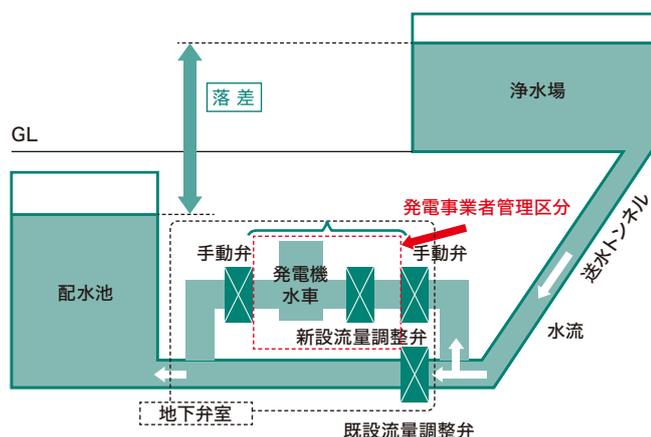


地下部:配管室

小水力発電の特徴

河川や農業用水路、ダム水路、上下水道施設、工業用水道施設、工場やプールなどの循環水処理施設などで発生する水流はエネルギーとして有効活用できます。一般河川、農業用水、砂防ダム、上下水道などの水のエネルギーを利用し、水車を回すことで発電する方法です。一般的には、河川に流れる水をダムに貯めることなく直接取水し、利用する「流れ込み式」の発電方式が採用されます。「小水力」とされる発電出力の範囲に、法的な区分けはありませんが、1,000kW以下の発電出力を小水力発電と称するケースが多いようです。

【東灘第1低層配水場小水力発電模式図】



発電出力、発電量の算出

発電出力(kW)は、[重力加速度9.8]×[1秒当たりの流量(m³/S)]×[有効落差(m)]×[発電効率0.7]で求められ、年間の発電量(kWh)は、上記[発電出力]×[稼働時間:24(h)×365(日)×稼働率]で算出します。この式から、発電出力を検討するにあたっては「流量」と「落差」の2つの要素が非常に重要となります。

当社では当事業により得た実績、経験を活かし、今後も再生可能エネルギーの有効活用を通じて、持続的な社会の実現に貢献していきたいと考えています。

【計画概要】

事業名	東灘第1低層配水場小水力発電事業	<div style="border: 2px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; text-align: center;"> 運転開始からの CO₂排出削減量 ※ 44.8t </div>
場所	神戸市水道局 東灘第1低層配水場内 神戸市東灘区西岡本4丁目17-1	
期間	2020年6月から20年間	
業務	配水場内の管路(浄水場から配水池)に小水力発電設備(50kW未満)を設置、FITにより関西電力に売電	
発電設備	名称:「K1パワープラント」 水車:ポンプ逆転水車 出力:42.5kW 有効落差:35m 流入水量:14,000~20,600m ³ /日(最低12,000m ³ /日) 発電量:約340,000kWh/年	

※CO₂排出削減量/(発電量×0.318kg-CO₂/kWh)-(発電量×0.0109kg-CO₂/kWh)
(145,939×0.318) - (145,939×0.0109)=44.8t



自然共生社会の実現に向けて

鴻池組では「生物多様性行動指針」を定め、自然環境に重大な影響を与えることのないように、施工計画段階から周辺生態系へ配慮しながら工事を進めています。



➤ 岩井橋架替工事

岩井橋架替工事は、都道474号(清州橋通り)の老朽化した岩井橋を架け替える工事です。岩井橋は一級河川の横十間川を跨ぐ橋梁として下部工が1930年に竣工してから現在まで、約90年が経過しています。

現場周辺の環境は、東京都江東区・墨田区を南北に流れる横十間川の両脇に、親水公園と呼ばれる遊歩道が並行して存在し、ランニングコースや通学、通勤に活用されています。また、工事箇所には水上アスレチックやボート乗り場もあり、多くの地元住民に親しまれています。

今回の架け替えにあたっては、横十間川をいったん切廻してから掘削、構築を行うことになりました。河川を切廻す工事に際しては、工事範囲から見て上流側と下流側を鋼矢板で仮締切りした上で水替えする必要があります。そこで、工事範囲にいる河川生物の行き場がなくならないように、確認できた河川生物はバケツや網ですくい工事範囲外の横十間川へと移していきました。

また、工事により生じる湧水はいったんシルトフェンス内へ排水し、汚濁の拡散を防ぎました。さらに、シルトフェンスや仮締切りの付近に

は自然と浮遊物が溜まっていくため、週に1度の清掃を実施しています。

このように、横十間川の生態系に配慮しながら工事を進めていきました。とくに仮締切り内の水替え中には、親水公園を通行される方々が立ち止まって興味深そうに作業を見るなど、関心の高い工事となっています。



水替え

移した生物:ハゼ ドジョウ カニ 等々



移設作業



移した生物



シルトフェンス



ボート乗り場

5

環境負荷の低減と 環境関連技術の練磨

循環型社会の実現に向けて

循環型社会の実現に貢献するため、建設廃棄物の発生抑制やリサイクル率の向上に努めています。ここでは特に、災害廃棄物の処理業務についてご紹介します。

▶令和元年度 台風第19号に伴う災害等廃棄物処理業務

2019年10月の台風19号による記録的な豪雨は大きな被害をもたらし、宮城県伊具郡丸森町では死者10名、行方不明者1名、災害関連死1名と多くの尊い命が失われました。さらに、県管理の内川、新川および五福谷川で計18箇所が決壊するなど深刻な浸水被害が発生し、町内の住宅被害は1,067件に達しました。(2021年2月28日現在)

当社は本業務において、

- ①がれき混じり土砂の中間処理
- ②流木・稲わらや家屋解体の木くずを処理する仮置場
- ③家屋解体廃棄物を処理する仮置場

を管理運営しました。

本業務は、耕作を予定している水田に仮置きしている稲わらについて、3月31日の工事着手後に至急撤去するように求められ、その1週間後から稲わら撤去作業を開始しました。町内3ヶ所の仮置場は5月から災害廃棄物を受け入れられるように早期に整備し中間処理を行いました。被災地の早期の復興と復旧のためには、こうした災害廃棄物を、適正かつ迅速に処理することが求められています。災害廃棄物

は一般廃棄物となるため町外で処理するものについては行政間での手続きが必要となります。丸森町の迅速な対応により、各種廃棄物は中間処理設備や最終処分場がある他県を含む他自治体に遅滞なく搬出できています。

災害廃棄物のリサイクル率を高めるには、多くの廃棄物がリサイクルできるような処理品目区分、処分先の確保や解体業者さんの協力が不可欠です。特に解体業者は40社近くあり適切に分別して来ない業者さんもいます。本業務では適切に分別しないで搬入してきた解体業者さんに対し、町の担当者と現地で立ち合って指導してもらうことで一定の分別ルールを維持し、リサイクル率向上に努めています。さらに現場では100円ライターのガス抜きや、酒瓶・缶詰め等をつつひとつ開封し、内容物とガラス、金属に分別処理するなどして、よりいっそうのリサイクル率向上に努めていることをぜひ知ってもらえればと思います。

本業務は、合計10.8万tの災害廃棄物を処理し、リサイクル率96.2%を達成して、2020年12月に完了しました。詳しい処理状況は右ページをご覧ください。



現場所長の声

「災害廃棄物処理が進まない限り丸森町の復興はない」という強い思いで本業務にあたりました。

私たち建設業は、迅速に災害廃棄物を処理することで復旧・復興を支えつつ、リサイクル率向上により循環型社会実現に寄与できます。これからも環境関連技術の練磨に努めつつ、安心安全な社会づくりに貢献していきます。

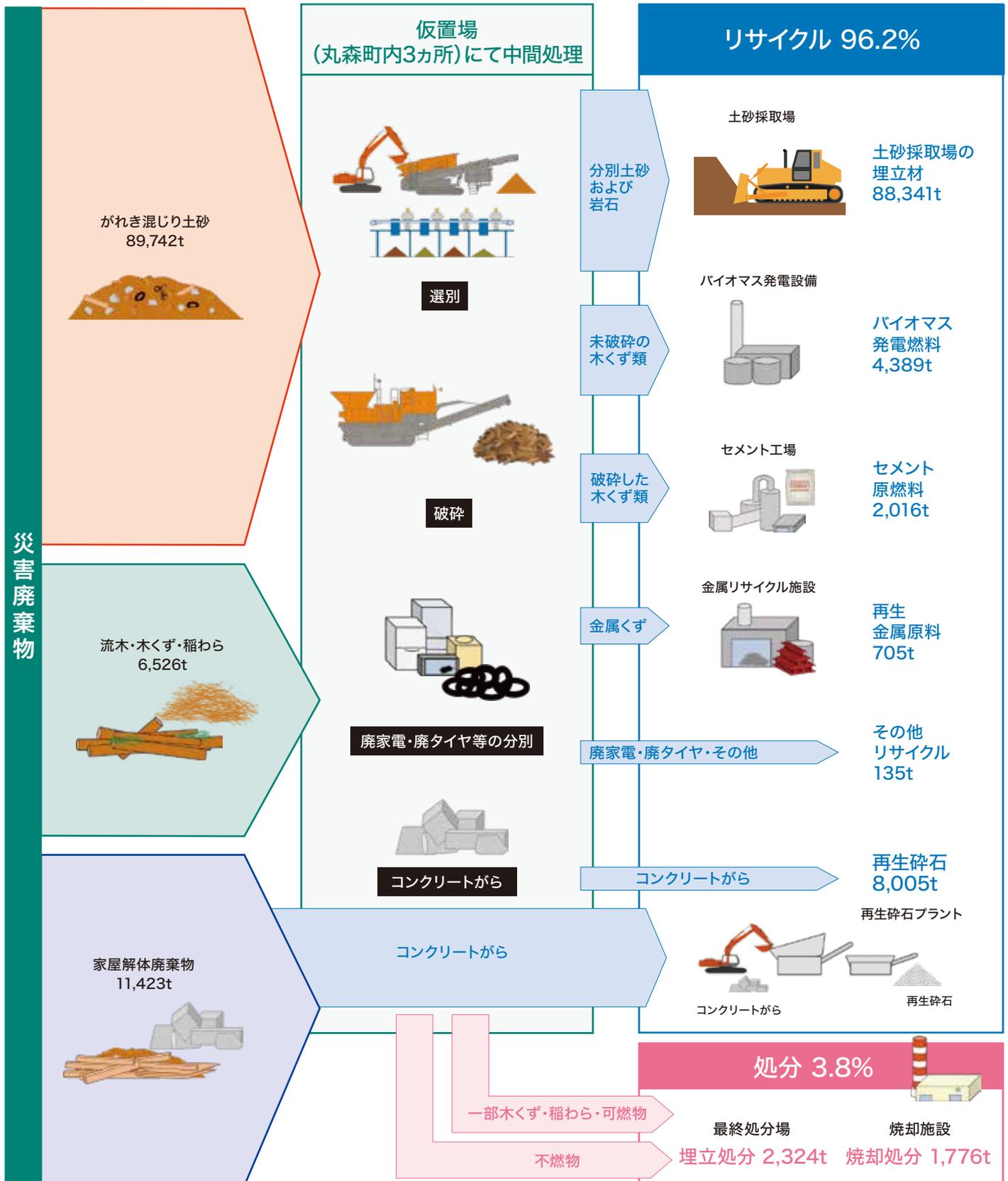


令和元年度
台風第19号に伴う
災害等廃棄物処理業務
所長 上野 裕司



災害時に発生する廃棄物は、災害の種類やその大きさによりさまざまな状態となりますが、一度に大量に発生するというのが大きな特徴です。処理を急ぐあまり安易に処分すると、既存処理施設の能力超過や最終処分場容量の逼迫を招くなど多大な社会的負荷を生じてしまいます。

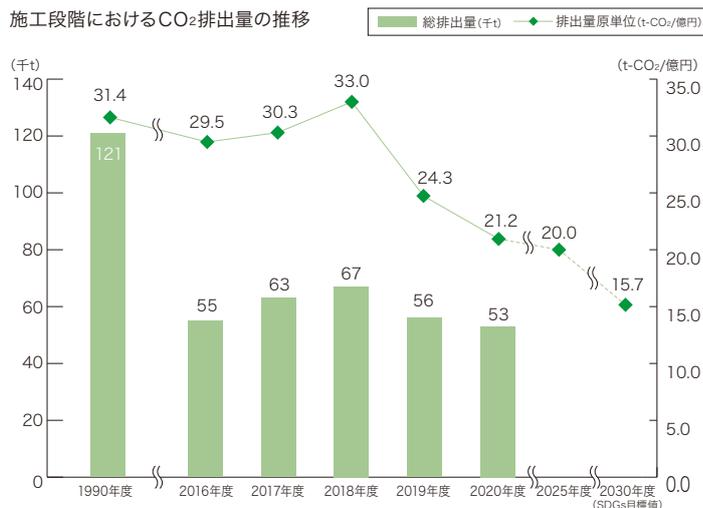
適切に品目ごとに選別し、ふるい分けや破碎などの処理を行うことで、廃棄物からリサイクル材料に生まれ変わり、社会的負荷および環境負荷を大きく低減することができます。



CO₂排出量の推移

2020年度の施工段階におけるCO₂排出量原単位は、21.2 t-CO₂/億円となり、前年比で3.1ポイント良化しました。工事量は微増ですが、排出量は前年より約3千t減少しています。これからも、建設重機関係の効率的な運用の計画、LEDなどの高効率照明の利用促進、省燃費運転などの教育を行うことで、積極的にCO₂排出量の削減に努め、SDGs目標値である2030年度のCO₂排出量原単位15.7 t-CO₂/億円の達成を目指します。

施工段階におけるCO₂排出量の推移



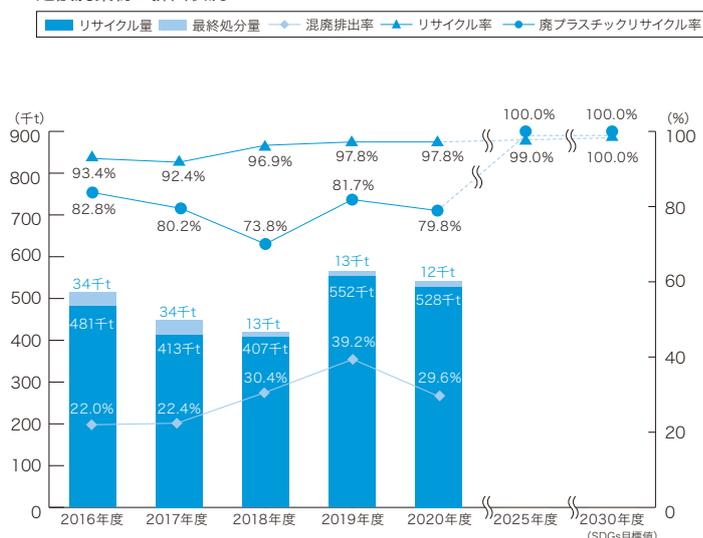
建設廃棄物の排出状況

2020年度の建設廃棄物の排出量は540千tとなり、前年比で約24千t減少しました。混合廃棄物の排出率は前年から9.6ポイント良化して29.6%、リサイクル率は97.8%と前年と変化がありませんでしたが、最終処分量は12千tと前年から約1千t減少しました。廃プラスチックリサイクル率は79.8%と前年から1.9%悪化しました。今後も当社はリデュースを始めとする3R活動に積極的に取り組むとともに、SDGs目標値である2025年度の廃プラスチックゼロおよび2030年度のリサイクル率100%の達成を目指し、建設廃棄物の最終処分量の低減に努めていきます。

※3R活動…循環型社会実現のために大切なリデュース(廃棄物の発生抑制)、リユース(再使用)、リサイクル(再資源化)の3つの活動を指す言葉です。

令和2年度3R推進功労者等表彰の会長賞を8工事事務所で受賞

建設廃棄物の排出状況



マテリアルバランス

2020年度の国内事業活動により発生した環境負荷や環境配慮について、電力や建設資材などの資源の消費をINPUT、完成工事高や環境保全を事業活動、建設副産物やCO₂をOUTPUTに示し、マテリアルフローとして表しています。環境や社会に大きな影響を与える項目については継続的改善に努め、CO₂の排出抑制による地球温暖化防止やリサイクル率向上による循環型社会の実現に取り組んでいます。

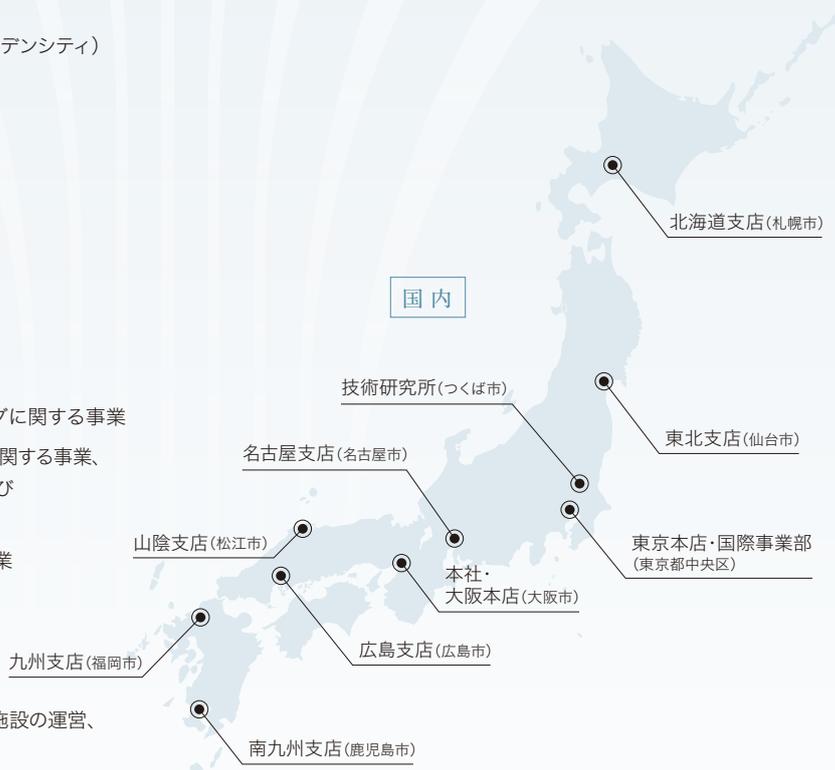
INPUT	事業活動	OUTPUT
エネルギー 【電力】 工事(グリーン電力含む).....17,249千kwh 【化石燃料】 軽油.....17,648kl 灯油.....78kl 重油.....337l ガソリン.....160kl 水.....172kl 主要建設資材 生コンクリート.....229,700m ³ セメント.....16,861t 鋼材.....90,385t 鉄筋.....35,387t グリーン調達 コピー用紙(オフィス).....10,653,800円 再生加熱アスファルト混合物...10,854t 高炉セメント.....1,471t 生コンクリート(高炉セメント)...63,180m ³	土木工事・完成工事高 831億円 建築工事・完成工事高 1,686億円 (海外工事分除く) 環境保全 ・地球温暖化の防止 ・CO ₂ の排出抑制 ・省エネルギー ・電力使用量の低減 ・循環型社会の構築 ・3R(リデュース・リユース・リサイクル) ・公害防止 ・生物多様性、大気汚染、資源の枯渇、 土壌・水質汚染、騒音・振動など 環境社会貢献 環境技術開発	建設副産物 【建設発生土】 発生量.....617,215m ³ 有効利用率.....30% 【産業廃棄物】 発生量.....540,204t 中間処理量.....528,464t 最終処分量.....11,740t リサイクル率.....97.8% 混合廃棄物排出量...10,257t 混合廃棄物排出率...29.6% 【うち特別管理 産業廃棄物・ 最終処分量 】 855t 廃プラスチックリサイクル率.....79.8% CO₂ 排出量.....53,242t-CO ₂ 排出量原単位.....21.2t-CO ₂ /億円(施工高)

会社概要

社名	株式会社鴻池組
本社所在地	大阪市中央区北久宝寺町3-6-1(本町南ガーデンシティ)
創業	明治4(1871)年
設立	大正7(1918)年6月
資本金	53億5千万円
売上高	2,592億円(2020年度)
従業員数	1,855名
代表取締役社長	渡津 弘己

事業項目

1. 建設工事の企画、測量、設計、監理、請負及びコンサルティングに関する事業
2. 環境汚染物質の除去、土壌浄化、河川・湖沼の浄化等環境保全に関する事業、その他環境関連事業に関する企画、調査、設計、監理、施工及びコンサルティング並びにこれらに付帯する一切の事業
3. 不動産の売買貸借及びその仲介並びに所有管理に関する事業
4. 骨材及び砂利の採取販売に関する事業
5. 建設用資材の製造及び販売に関する事業
6. 不動産の鑑定評価に関する事業
7. 再生可能エネルギーを利用した発電事業並びにそれに関する施設の運営、管理及び電力会社への電力供給、販売に関する事業
8. 前各号に関連する一切の事業



国内外ネットワーク (2021年5月1日現在)





SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



未来のために、いま選ぼう。



株式会社鴻池組
 本社 ESG経営推進室 CSR推進部
 TEL. 06-6245-6516
<http://www.konoike.co.jp/csr/>